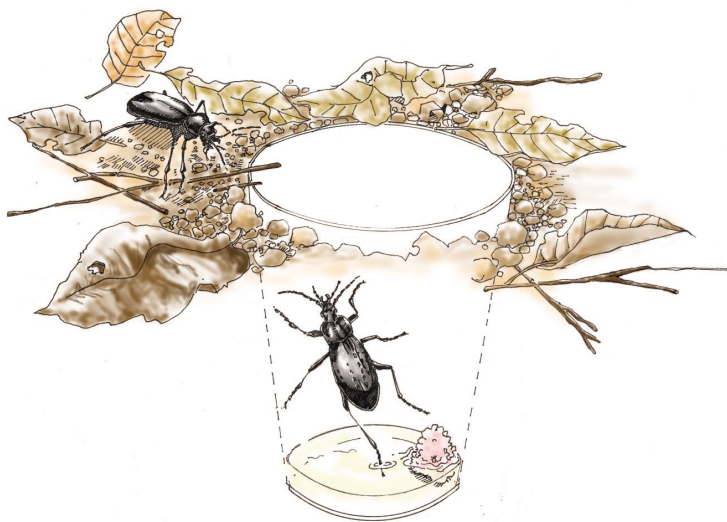


りんしょう Point2 林床を調べる

りんしょう
林床の状態は、生きものの生活にとって大切な要素です。いろいろな林で罠わなをしかけて、すんでいる虫の違いを比べてみましょう。ここでは「ベイトトラップ」という罠わなをかけてみます。この罠わなは、りんしょうを歩き回る昆虫の調査によく使われる方法で、夜に行動する種類を確かめるのにも有効です。

「ベイトトラップ」はプラスチックのコップを使い、中にエサを入れた落とし穴の罠わなです。エサは臭いや香りのするものが効果的ですが、ジュースや肉、魚、果物など何でもいいでしょう。エサの種類によって、落ちる虫の種類も違ってきます。

コップの口が地面と平らになるように埋めこんで、中にエサを入れます。林床りんしょうにすむ虫の多くは夜に活動するので、一晩おいたほうが効果があります。



うすぐら
明るい林、薄暗い林、ヒノキ人工林、スギ人工林、林床りんしょうの湿った場所、乾いた場所などいろいろな場所に罠わなをかけて、虫の数や種類を比べてみましょう。

こんごうさん さんちよう
金剛山の山頂近くでは、世界でここにしかないコンゴウオサムシさんしよう(P. 11参照)が落ちるかもしれません。

Point3 ブナ林を聴く^き

ブナ林にはブナ林特有の生きものが多いとP. 18で説明しましたが、これらの生きものをみつけるのはとても大変です。例えば、コルリクワガタは朽ち木にすんでいます^くが、どんな朽ち木にでもいるものではありません。ヒメオオクワガタも同じように朽ち木にいたり、季節によっては木の上でしかみられません。これらの生きものをみつけるには、経験豊富な指導者に教わるのが一番の近道です。ここでは、だれにでもできる観察方法を紹介します。ブナ林にはブナ林特有のセミとして、エゾゼミやアカエゾゼミ、エゾハルゼミがすんでいます。これらの鳴き声を聞いてみましょう。

エゾゼミはギーギィギィ、アカエゾゼミはジーと単調な連続音で鳴き、どこから聞こえるのかがわかりにくい不思議な鳴き声です。エゾハルゼミは、ミョーキーン・ミョーキーン・ケケケケ^{きみょう}と奇妙な声で鳴きます。最初はセミの声とは思わないかもしれません。どれも普段は聞いたことがない鳴き声ですが、わかりますか？特殊な環境には変わった生きもの^{じっかん}がいることが実感できます。成虫のあらわれる時期は、エゾハルゼミは6月中旬から7月下旬、エゾゼミとアカエゾゼミは7月下旬から9月上旬にかけてです。アカエゾゼミは、大阪府では金剛山^{こんこうざん}にしかすんでいません。そのころ、林の中の木の幹や枝などをさがして、セミのぬけがら^{こわ}をみつけてみましょう。壊さないように、フィルムケースなどに入れて持って帰ってから、家の近くでとったクマゼミやアブラゼミのぬけがらと比べてみましょう。違いがわかりますか？

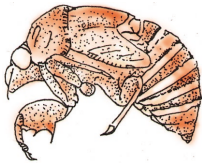


145. エゾゼミのぬけがら

～エゾゼミ～



触覚



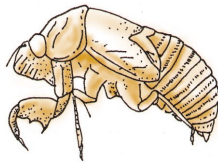
大きい
せき かつしよく
赤褐色

触覚の毛は少ない

～クマゼミ～



触覚



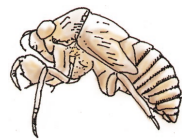
大きい
おろ かつしよく
黄褐色

触覚の毛は少ない

～アブラゼミ～



触覚



中くらい
ちや かつしよく
茶褐色

触覚の毛は多い

だいば Point4 台場クヌギをみつける

ほくせつ
北摂地域では、まだ道路脇などでもだいば
クヌギをみることができます。樹液がよく出
ている木を見つけると、多くのカナブンやハナ
ムグリ類にまじって、クワガタムシやカブト
ムシが集まっています。さらによくみると、
ヨツボシオオキスイやヨツボシケシキスイ、
ハエなどの小さな虫がたくさん集まってい
ることがわかります。



146. カブトムシやカナブン

オオスズメバチやモンズズメバチなども常連じょうれんなので、不用意ふよういに近づくと危険です。
飛びさるまで待って観察しましょう。

樹液が出ている木がみつからなかったときは、幹みづに蜜など樹液のかわりになる
ものをぬっておくと、少しは虫が集まってきます。ハチミツなどの甘い香りのす
るものと、お酒などをまぜて蜜みつをつくと効果があります。

また、夜には別の種類が集まることもあるの
で、昼に集まる虫と比べてみるとおもしろい
でしょう。

夜の林の中は暗くて危険ですので、子供は
必ず大人の人と一緒にいきましょう。



だいば
147. 台場クヌギ



コラム3 台場クヌギ

「^{だいば}台場クヌギ」とは、^{せ たけ}背丈の低い幹の部分だけが^{いよう}異様に太くなり、変な形をしたクヌギのことです。これは、一本の木を大切にせずと長く利用しようとする、大変すばらしい工夫から生まれた木です。

クヌギを根元から切らずに
ある程度の高さで残す



枝が切り口の横から
生えてくる



～台場クヌギのできるまで～



ずっとこのような利用をすることで
切り口辺りが異様に太くなる

枝が十分に太くなったら、
再び木材を利用するために枝を切る

^{だいば}台場クヌギの太い幹はこぶだらけになり、^{くどう}割れ目や空洞などができやすく、昆虫のすみかやかくれがになります。しかも、クヌギからは樹液が出て、食べものまで得られます。さらに太い^{だいば}台場クヌギは、^か枯れた後もクワガタムシやカミキリムシの大きな幼虫にエサも提供してくれるのです。昆虫が多いことは、それをエサとする鳥や他の動物にとってもすみやすい場所になります。このように^{だいば}台場クヌギは、^{ぞうきばやし}雑木林の生きものたちにとって、とても大切な存在なのです。一本の木を大切に利用してきた人間の生活の^{いと}営みが、知らず知らずのうちに、多くの生きものたちに良好な生活場所を提供しているのです。

Point5 足跡さがし

大阪の山にはタヌキやキツネ、アナグマ、イノシシ、ニホンジカ、ニホンザル、テン、イタチ、リスなどのほ乳類がすんでいます。箕面公園みののおこうえんのニホンザル以外では、これらの動物に直接であえることはあまりありませんが、彼らの生活している痕跡こんせきは、注意すればあちこちで見つけることができます。普段になげなく歩いている山道でも、水たまりのまわりなどの地面が湿った場所を注意してしてみると、動物の足跡らしきものがみつかることがあります。じっくり観察してみましょう。

足跡図鑑ずかんがあれば、その場でどんな動物の足跡なのか調べます。図鑑ずかんがなくてもスケッチをしましょう。形やツメ跡の位置、足跡のだいたいの大きさや間隔もはかって記入しておきましょう。まるで、事件の現場検証けんしやうのようです。次に、周りをみわたして、その動物がどこから出てきてどこへ行こうとしたのか、何をしにきたのかなど想像するのも楽しいでしょう。これは、自然を観察をするうえで大切なことです。

里山さとやまではタヌキの足跡がよくみつかります。北摂地域ほくせつではニホンジカの数が多く、足跡もよくみつかります。人家じんかの近くではイヌやネコの足跡も多いので、間違えないように注意しましょう。動物の足跡は、フンや特徴のある食べ跡などとともに「生活痕せいかつこん」(英語ではフィールドサイン)とよばれています。ニホンリスの食べ跡はとても特徴があり、「エビフライ」とよばれて親しまれています。



148. ニホンリスの食べ跡
(「エビフライ」とよばれています)

右は普通のマツボックリ。
左のマツボックリはニホンリスに食べられて、エビフライのようになっています。



～だれの足跡だか、わかりますか～



←アナグマ



←ニホンジカ



後ろ足



←タヌキ



←キツネ



前足

←ノウサギ



←イノシシ

※ノウサギ以外は、後ろ足の足跡です